

令和6年度 林業普及週間現地情報 (2/9～2/15)

森林管理課

辺土名小学校での木育について

令和7年2月14日(金)

令和7年2月14日、国頭森林組合にて国頭村立辺土名小学校6年生12名に対し木育を行なった。

今回の木育では、各児童に事前に、昔の沖縄にタイムスリップしたと仮定したときに、どのような材料で家や道具、服を作るのか、どうやって火を起こしたり水を確保するのかというのをゲーム形式で回答をしてもらい、その結果を公表するとともに、実際の沖縄で使われていた材料を紹介し、特に木材の使用用途、樹種ごとの材としての特徴について説明した。児童たちは、自分たちが考えていた答えと実際に使われていた材料との違い、昔の人達の知恵を楽しみながら学んでいた。

また座学の後半では、現在進行中の首里城復興についても動画を交えて説明した。児童たちは、首里城の梁として利用される国頭村内のオキナワウラジログシの伐採状況の映像に迫力を感じていた。

最後に、森林組合内の工場を見学し、実際に木材に触れてもらった。倉庫内の木材の匂いを嗅ぎ「木のいいにおいがする。」といった感想や、木材を持ち上げる体験をさせた際には「すげー重たい。」といった感想を聞くことができた。

児童みんながのびのびと楽しく学ぶことができ、担任の先生からは次年度も継続してほしいとの声もいただいたことから、今後も引き続き地元産業である林業を学ぶ機会を提供していきたい。



座学の様子



木材を持ち上げる体験をしている様子

(報告者：北部農林水産振興センター 仲里、佐野、西岡、國吉)